



2027年2月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年7月15日

上場会社名 株式会社 ワイズテーブルコーポレーション
コード番号 2798 URL <https://www.ystable.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 船曳 睦雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 武本 尚子

TEL 03-5412-0065

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年2月期第1四半期の連結業績(2026年3月1日～2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年2月期第1四半期	3,549	6.3	198	9.9	170	2.2	390	152.7
2026年2月期第1四半期	3,340	8.2	180	27.4	174	22.1	154	19.8

(注) 包括利益 2027年2月期第1四半期 390百万円 (152.7%) 2026年2月期第1四半期 154百万円 (19.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期第1四半期	118.41	—
2026年2月期第1四半期	46.86	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年2月期第1四半期	6,098	1,274	20.9	386.33
2026年2月期	5,082	883	17.4	267.91

(参考) 自己資本 2027年2月期第1四半期 1,274百万円 2026年2月期 883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年2月期	—	—	—	—	—
2027年2月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年2月期の連結業績予想(2026年3月1日～2027年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,355	14.3	163	69.5	159	25.3	395	228.7	119.89
通期	15,446	18.4	405	62.7	459	33.2	630	207.4	191.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1 社 (社名) 株式会社山の上ホテル 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2027年2月期1Q	3,298,400 株	2026年2月期	3,298,400 株
2027年2月期1Q	332 株	2026年2月期	332 株
2027年2月期1Q	3,298,068 株	2026年2月期1Q	3,298,118 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績等の見通しは、当社が現時点において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと異なることがあります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(企業結合等関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善の動き等を背景として緩やかな回復基調を維持したものの、中東情勢の緊迫化を背景として原油価格及びエネルギー価格が上昇するなど、景気の先行きに対する不透明感の高い状況が続いております。

外食産業におきまして、3月は季節需要及び観光需要に支えられ堅調に推移いたしました。しかしながら、4月以降は、中東情勢の長期化に対する懸念、燃料費・原材料価格の上昇、石油由来資材の供給不安等を背景に先行き不透明感が高まり、法人需要及び消費者マインドの低下がみられました。加えて、人材不足も継続しており、事業環境は引き続き厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、高付加価値化、和食事業の強化、カジュアルイタリアン事業の展開という課題に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、カジュアルレストラングループが好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。利益面におきましては、増収の効果に加え、前連結会計年度に新規開店及び業態変更を行った店舗が貢献し、営業利益は前年同期を上回りました。当第1四半期連結累計期間におきまして、株式会社山の上ホテルの株式を取得しましたが、当該取得に係る費用等を計上したこと等により、経常利益は前年同期を下回りました。また、同社を連結の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益226,867千円を特別利益として計上いたしました。

これらの結果、売上高は3,549百万円（前年同期比6.3%増加）、営業利益は198百万円（前年同期比9.9%増加）、経常利益は170百万円（前年同期比2.2%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は390百万円（前年同期比152.7%増加）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメントの状況は次の通りです。

①XEXグループ

「XEX」をはじめとする高級レストラン事業であるXEXグループにつきましては、引き続き、高付加価値化の方針のもとでブランド力向上のための企画や、インバウンド需要の取り込みに取り組んでまいりました。当第1四半期連結累計期間におきまして、売上高は、4月及び5月における法人需要及び消費者マインドの低下の影響はあったものの、3月が好調であったことにより、当第1四半期連結累計期間合計では前年同期をやや上回りました。利益面では、株式会社山の上ホテルの株式取得に係る費用が発生したこと、人員確保に係る費用が増加したこと等により、営業利益は前年同期を下回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の同グループの売上高は1,372百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益は148百万円（前年同期比8.7%減）となりました。当第1四半期連結累計期間における新規出店、閉店はありませんでした。また、株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたことにより、同社の直営店4店舗が追加されました。この結果、店舗数は直営店14店舗となりました。なお、当該4店舗の業績は当第1四半期連結累計期間の業績には含まれておりません。

②カジュアルレストラングループ

カジュアルレストラングループにつきましては、付加価値の向上と客単価の引き上げに加え、デリバリー営業の強化に努めてまいりました。当第1四半期連結累計期間におきましては、特にデリバリー営業の売上高が、外部サービスの活用が進んだことによって前年同期比で高水準で推移しました。イートイン営業につきましても、前連結会計年度に新規開店及び業態変更を行った店舗、並びに当第1四半期連結累計期間に新規に開店した店舗の貢献により、売上高は前年同期を上回りました。原材料価格の上昇の影響や、人員確保に係る費用の増加はありましたが、増収により吸収し、営業利益は前年同期を上回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の同グループの売上高は2,177百万円（前年同期比10.1%増）、営業利益は343百万円（前年同期比16.8%増）となりました。

店舗の状況につきまして、2026年3月に直営店「The TRATTORIA SALVATORE CAFE BASEGATE横浜関内」を新規に出店いたしました。この結果、店舗数は直営店39店舗、FC店31店舗となりました。

③その他

その他は、人材派遣事業（ただし同事業は休眠中）により構成されております。当第1四半期連結累計期間の同事業の売上高は一百万円（前年同期は一百万円）、営業損失は0百万円（前年同期は営業損失0百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は3,198百万円となり、前連結会計年度末に比べ516百万円増加いたしました。これは主として、株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたことによる現金及び預金の増加289百万円、売上高の増加による売掛金の増加234百万円等によるものです。固定資産合計は2,899百万円となり、前連結会計年度末に比べ499百万円増加いたしました。これは主として、株式会社山の上ホテルを連結の範囲に含めたこと並

びに新規出店及び店舗設備の維持更新工事を行ったこと等による有形固定資産の増加221百万円、敷金及び保証金の増加259百万円、長期貸付金の増加20百万円等によるものです。

この結果、総資産は6,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,015百万円増加いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は2,033百万円となり、前連結会計年度末に比べ269百万円増加いたしました。これは主として、仕入高の増加による買掛金の増加124百万円、営業活動の活発化に伴う未払金の増加47百万円等によるものです。固定負債合計は2,790百万円となり、前連結会計年度末に比べ355百万円の増加となりました。これは主として、借入の実施による長期借入金の増加236百万円等によるものです。

この結果、負債合計は4,824百万円となり、前連結会計年度末に比べ625百万円増加いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,274百万円となり、前連結会計年度末に比べ390百万円増加いたしました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益390百万円を計上したこと等によるものです。

この結果、自己資本比率は20.9%（前連結会計年度末は17.4%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の実績を踏まえ、2026年4月14日に公表いたしました2027年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想及び通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、本日公表いたしました「特別利益（負ののれん発生益）の計上並びに2027年2月期第2四半期（中間期）及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,535,457	1,824,485
売掛金	712,894	947,332
原材料及び貯蔵品	199,901	199,836
その他	236,813	227,703
貸倒引当金	△2,696	△583
流動資産合計	2,682,370	3,198,773
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	890,283	1,129,282
その他（純額）	328,953	311,534
有形固定資産合計	1,219,236	1,440,816
無形固定資産		
その他	19,301	25,378
無形固定資産合計	19,301	25,378
投資その他の資産		
投資有価証券	265,174	259,645
長期貸付金	138,101	158,101
敷金及び保証金	606,805	866,775
その他	151,576	149,339
貸倒引当金	△56	△611
投資その他の資産合計	1,161,602	1,433,251
固定資産合計	2,400,140	2,899,446
資産合計	5,082,510	6,098,220
負債の部		
流動負債		
買掛金	490,530	614,664
短期借入金	49,816	24,748
1年内返済予定の長期借入金	129,664	164,332
未払金	680,560	727,976
未払法人税等	4,596	1,288
契約負債	74,901	79,498
株主優待引当金	68,077	46,499
賞与引当金	-	12,182
その他	265,090	361,916
流動負債合計	1,763,236	2,033,105
固定負債		
長期借入金	1,440,081	1,676,498
資産除去債務	915,189	1,004,140
その他	80,404	110,344
固定負債合計	2,435,674	2,790,983
負債合計	4,198,910	4,824,088

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	375,831	375,831
利益剰余金	457,945	848,464
自己株式	△837	△837
株主資本合計	882,940	1,273,458
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	659	672
その他の包括利益累計額合計	659	672
純資産合計	883,599	1,274,131
負債純資産合計	5,082,510	6,098,220

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
売上高	3,340,164	3,549,222
売上原価	2,539,354	2,671,416
売上総利益	800,810	877,805
販売費及び一般管理費	619,865	678,886
営業利益	180,945	198,919
営業外収益		
受取利息	1,102	898
協賛金収入	12,878	12,725
その他	8,324	8,920
営業外収益合計	22,305	22,545
営業外費用		
支払利息	7,856	10,868
持分法による投資損失	19,186	21,763
その他	1,570	18,065
営業外費用合計	28,613	50,697
経常利益	174,637	170,766
特別利益		
負ののれん発生益	-	226,867
特別利益合計	-	226,867
特別損失		
減損損失	8,610	-
特別損失合計	8,610	-
税金等調整前四半期純利益	166,026	397,634
法人税、住民税及び事業税	1,141	1,146
法人税等調整額	10,337	5,969
法人税等合計	11,478	7,115
四半期純利益	154,548	390,518
親会社株主に帰属する四半期純利益	154,548	390,518

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
四半期純利益	154,548	390,518
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	13
その他の包括利益合計	12	13
四半期包括利益	154,561	390,531
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	154,561	390,531
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次の通りです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	48,333千円	50,120千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,363,001	1,977,163	3,340,164	-	3,340,164	-	3,340,164
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,363,001	1,977,163	3,340,164	-	3,340,164	-	3,340,164
セグメント利益 又は損失(△)	162,435	294,478	456,913	△576	456,337	△275,392	180,945

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、休眠中の人材派遣事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△275,392千円は、セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間に、「カジュアルレストラングループ」セグメントにおいて8,610千円の減損損失を計上しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	XEX グループ	カジュアル レストラン グループ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,372,045	2,177,177	3,549,222	-	3,549,222	-	3,549,222
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,372,045	2,177,177	3,549,222	-	3,549,222	-	3,549,222
セグメント利益 又は損失(△)	148,345	343,897	492,243	△579	491,664	△292,744	198,919

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、休眠中の人材派遣事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△292,744千円は、セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

当第1四半期連結累計期間のXEXグループセグメントにおいて、株式会社山の上ホテルの株式を取得し同社を連結の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益を226,867千円計上しております。また、負ののれん発生益は特別利益のため上記セグメント利益には含まれておりません。なお、発生した負ののれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

当社は、2026年3月9日開催の取締役会において、TCS-2投資事業有限責任組合ほか法人株主3名より株式会社山の上ホテルの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2026年3月31日付で全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社山の上ホテル

事業の内容：飲食店の経営

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、レストラン事業を主な事業とし、ただお食事をしていただくにとどまらず、サービスや空間演出も一体となった、心地よい特別な時間をお客様に愉しんでいただきたいという理念のもと、店舗を展開しております。

当社グループを取り巻く事業環境として、訪日外国人客数は堅調に推移しており、インバウンド需要は引き続き拡大が見込まれます。このような認識を踏まえ、当社グループは、和食事業を成長戦略における重点分野と位置付け、既存業態の強化と業態ポートフォリオの拡大に取り組んでまいりました。特に「ハイエンド×和食」は、国内外ともに成長ポテンシャルが高いと見込んでおります。

対象会社は、高価格帯の天ぷら業態「てんぷら山の上」等の店舗を運営しております。「てんぷら山の上」は伝統と歴史のある高級天ぷらとして広く認知されております。当社グループの既存店舗とも、高価格帯、アッパー・インバウンドの顧客層、職人の技を要する業態、中程度の店舗規模等の点において、非常に親和性が高いと考えられます。対象会社が有するブランド力及びコンテンツと、当社グループが有する店舗展開・運営力を掛け合わせることで、対象会社の出店拡大と、当社グループの和食事業の強化を図ってまいります。

以上より、当社は、対象会社を当社グループのポートフォリオに加えることが、対象会社の成長及び当社グループの企業価値向上に資すると判断し、本件株式取得を行うことを決定いたしました。

③企業結合日

2026年3月31日

④企業結合の法的形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

変更ありません

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得することによるものであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

株式取得価額：289百万円

取得コスト：10百万円

(3) 発生した負ののれんの金額

①発生した負ののれんの金額 226百万円

発生した負ののれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。